

## (5) ミカ ン

〔果樹類&gt;かんきつ&gt;みかん〕

## ① 防除のポイント・注意事項

病害虫名	防除時期	摘 要
そうか病	展葉初期 落葉期 梅雨期	・まん延すると防除困難になるので、発生初期に防除する。 ・展葉初期および落葉期の薬剤散布が重要である。
	[耕種的防除]	・り病している枝や葉は、せん定時に取り除く。 ・湿度が高いと多発するので、谷間での栽培や密植・過繁茂状態を避ける。
黒点病	果実肥大期	・枯れ枝や園内に残したせん定枝が伝染源となり、降雨のたびに枯れ枝等から病原菌が飛散する。このため、多雨年や老木園で発生が多い。 ・幼果期・梅雨期・秋雨期前(8月中下旬)の防除効果が高い。 ・薬剤散布後の累積降水量が250～300mmを目安に、次の散布を行う。
	[耕種的防除]	・枯れ枝はせん定で常時除去し、枯れ枝・せん定枝は園外で処分する。 ・ミカンの切り株がある場合には、肥料袋等をかぶせて病原菌の飛散を防ぐ。 ・適切なせん定により樹冠内部への採光を図り、枯れ枝の発生を抑える。
貯蔵病害 (青かび病 緑かび病)	収穫の10 ～30日前	・病原菌は土壌中にあり、秋季に土ぼこりとともに孢子が飛散して果実に付着する。 ・果実表面の傷口から感染し、貯蔵中に発病する。
	[耕種的防除]	・着果期間中は枯れ枝をこまめに除去し、果実の傷つきを防止する。収穫以後の果実では、収穫・運搬・選別などで果実に傷をつけないよう取扱いに注意する。 ・降雨時や降雨後または朝露など果実に水滴がある状態での収穫は絶対に避ける。 ・貯蔵中は過湿にならないよう換気するとともに、腐敗果は見つけ次第除去する。
切り口および傷口のゆ合促進	剪定整枝時、病 患部削り取り直 後、及び病枝切 除 後	・切り口に適量のトップジンMペーストを塗布する。
カイガラムシ類 カイガラムシ類 幼 虫	生 育 期	・ヤノネカイガラムシ越冬雌成虫の産卵は2か月にわたるため、第1世代幼虫は5～6月にかけて発生する。第2世代幼虫は7月下旬頃に発生する。幼虫のふ化最盛期～ふ化直後に薬剤散布する。 ・休眠期のマシン油乳剤の効果が高い。 <a href="#">休眠期防除参照</a>
	[耕種的防除]	・天敵寄生蜂の生息を保護するため、寄生蜂産卵期(7月・9月)の殺虫剤散布はなるべく控える。 ・整枝せん定によって、通風、採光を良好に保つ。
ヤノネカイガラムシ (幼虫～未成熟成虫)		
ミカンハダニ	防 寒 被 覆 除 去 後	・越冬虫に対しては、マシン油乳剤の効果が高い。 <a href="#">休眠期防除参照</a>
ミカンサビダニ	落 花 直 後 (5月下旬 ～6月下旬)	・晴天で乾燥が続くと、発生が増加しやすい。 ・そうか病および黒点病との同時防除を行う。
	梅雨明け後 (7月中旬 ～9月上旬)	・梅雨明け後から盛夏期にかけてダニ類は急激に増殖するので、初期発生に注意し、かけ残しのないように丁寧に散布する。
アザミウマ類 チャノキイロ アザミウマ	生 育 期	・チャノキイロアザミウマは年7～8回も発生を繰り返す。ミカン園内での繁殖は少なめで、周辺の間宿主で繁殖した個体が繰り返しミカン園に飛来する。
	[耕種的防除]	・イヌマキ、サンゴジュ、イヌマキ等の生垣、茶樹は中間宿主となるので、防風対策は防風ネットを用いる。 ・忌避効果のあるタイベックシートを樹冠下に敷設する。
アブラムシ類	生 育 期	・温州ミカンはカンキツトリステザウイルス耐病性であるが、アブラムシの吸汁によって温州ミカンから伝播したウイルスが中晩柑類で発病するため、温州ミカンと中晩柑類の混植園などではアブラムシ類の発生に注意する。

病害虫名	防除時期	摘 要
カミキリムシ類	生 育 期 (6～7月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成虫は枝や葉を食害する。幼虫は地際部から主幹部に食入し、樹勢低下や樹体枯死を引き起こす。</li> <li>・成虫は6月中旬頃から発生し、6月下旬～8月上旬頃に主幹部へ産卵する。</li> <li>・成虫防除は樹冠全体へ散布し、幼虫防除は主幹部等へ散布または塗布する。</li> </ul>
ゴマダラ カミキリ  ゴマダラ カミキリ成虫	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主幹部の雑草を除去し、隠れ家を減らす。</li> <li>・園内を見回って成虫を捕殺する。</li> <li>・幼虫は枝幹部の穴やひび割れを観察して、捕殺する。幼虫の食害痕にはトップジンMペースト等を塗布して、傷口のゆ合促進をはかる。</li> <li>・通風、採光を良好にする。</li> </ul>
ミカシ ハモグリガ	生 育 期 (7月下旬 ～9月上旬)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月以降に発生する夏秋梢に発生しやすい。</li> <li>・幼虫が葉の内部を食害しながら不規則に曲がりくねって進み、食害痕の様子から「エカキムシ」と呼ばれる。</li> <li>・被害葉は葉肉内に雨水が入ることでかいよう病の発生が多くなる。</li> <li>・多発すると葉奇形となり新梢生育が抑制される。</li> </ul>
	[耕種的防除]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食害された新梢は、せん定で除去する。</li> </ul>

## ミカン【殺菌剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）					
									そうか病	灰色かび病	黒点病	切り口及び傷口のゆ合促進	貯蔵病害（青かび病）	貯蔵病害（緑かび病）
みかん	エムダ <sup>®</sup> イファー水和剤	マンネブ <sup>®</sup> 水和剤	M3		収穫60日前まで	2回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布			600～800倍			
みかん	キノト <sup>®</sup> -水和剤40	有機銅水和剤	M1		収穫30日前まで	5回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	500倍		400～500倍			
みかん	ジ <sup>®</sup> マンダ <sup>®</sup> イセン水和剤	マンゼ <sup>®</sup> ブ 水和剤	"UN(I*)		収穫30日前まで	4回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	400倍		400～800倍			
みかん	トップ <sup>®</sup> ジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		収穫前日まで	5回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	1000～1500倍	1000～1500倍			2000～3000倍	2000～3000倍
みかん	ペ <sup>®</sup> ンレート水和剤	ペ <sup>®</sup> ノミル水和剤	1		収穫前日まで	4回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	2000～3000倍	2000～3000倍			4000～6000倍	4000～6000倍
かんきつ	ストロビ <sup>®</sup> -ド <sup>®</sup> ライフロアブル	クレソキシムメチル水和剤	11		収穫14日前まで	3回以内	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	2000～3000倍	2000～3000倍	2000～3000倍			
かんきつ	トップ <sup>®</sup> ジンMペ <sup>®</sup> -スト	チオファネートメチルペ <sup>®</sup> -スト剤	1		【A】	3回以内		塗布				原液		
かんきつ	フロンサイト <sup>®</sup> SC	フルアジ <sup>®</sup> ナム水和剤	29		収穫30日前まで	1回	200～700 <sup>g</sup> / <sub>10a</sub>	散布	2000～2500倍	2000～2500倍	2000倍			

使用時期：【A】 剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後

## ミカン【殺虫剤】

RPA

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）												
									アゲハ類	アザミウマ類	アブラムシ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	カミキリムシ類	ゴマダラカミキリ	ゴマダラカミキリ成虫	チャノキイロアザミウマ	ミカンサビダニ	ミカンハダニ	ミカンハモグリガ	
みかん	アブ・ロート・フロアブル	アブ・ロエジン水和剤	16		収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布					1000倍								
みかん	アブ・ロート水和剤				収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布							1000～1500倍						
みかん	ガットサイドS	MEP乳剤	1B		【A】	1回	-	【X】						1(原液)～1.5倍							
						1回	100～1000mL/樹	【Y】						1.5倍							
みかん	カホス乳剤	イソキサチオン乳剤	1B	劇	収穫30日前まで	4回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布				1000～1500倍			1500倍		1000～1500倍			1000～1500倍	
みかん	スカウトフロアブル	トラロメリン水和剤	3A	劇	収穫3日前まで	5回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布								2000～4000倍				2000～4000倍	
みかん	ダニカット乳剤20	アミトラス乳剤	19		収穫14日前まで	1回		散布									1000～1500倍	1000～1500倍			
みかん	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		収穫21日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布	2000倍											1000～2000倍	
みかん	ピラニカ水和剤	テブフェンピラト水和剤	"21A(I*)	劇	収穫前日まで	1回	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布											1000～2000倍		
みかん	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布	2000～3000倍							2000～3000倍	2000～3000倍			2000～3000倍	
みかん	マブリック水和剤20	フルバリンネト水和剤	3A	劇	収穫21日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布				2000～4000倍				2000～4000倍				2000～4000倍	
かんきつ	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布									2000～6000倍				
かんきつ	サンマイル水和剤	ピリダベン水和剤	21A	劇	収穫3日前まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布								2000倍	2000～3000倍	2000～3000倍			
かんきつ	ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメト水和剤	21A		収穫前日まで	2回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布									2000倍	1000～2000倍			
かんきつ	ダントツ水溶剤	クロチアジソン水溶剤	4A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布		2000～4000倍	2000～4000倍				2000～4000倍					2000～4000倍	
かんきつ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		収穫前日まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布								2000倍				1000～2000倍	
かんきつ	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト水溶剤	4A	劇	収穫14日前まで	3回以内	200～700 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	散布		2000～4000倍	2000～4000倍	2000～4000倍			2000～4000倍					2000～4000倍	
							30～75 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	【Z】						200～400倍							

作物名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用時期	使用回数	使用量	使用方法	適用病害虫名/使用濃度（希釈倍率）												
									アゲハ類	アザミウマ類	アブラムシ類	カイガラムシ類	カイガラムシ類幼虫	カミキリムシ類	ゴマダラカミキリ	ゴマダラカミキリ成虫	チャノキイロアザミウマ	ミカンサビダニ	ミカンハダニ	ミカンハモグリガ	
かんきつ	モントフロアブル	スピロテトラト水和剤	23		収穫7日前まで	3回以内	200～700g/10a	散布		2000倍	2000倍	2000倍									

使用時期：【A】6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)但し収穫90日前まで

使用方法：【X】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布、【Y】樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで散布、【Z】主幹から株元に散布